

ぼっちゃんとぼちゃん

▶ 2024.1.2(火)

- A : 「ぼっちゃんがねえ…  
”ぼちゃん”と池に落ちたの…」
- B : 「そりゃ、たいへんだ、  
それでぼっちゃんはどうしたの？  
みんなで助けてあげたの？」
- A : 「あの～っ、  
そういう問題ではなくて、ですねえ…  
ぼっちゃんが池に”ぼちゃん”とはまったの。」
- B : 「だからさあ、  
みんなで助けたんでしょう？」
- A : 「助けても、助けなくても、そんなことはどうでもいいの！  
ぼっちゃんが”ぼちゃん”なのっ！」
- B : 「わからん”しと”ですねえ。  
ぼっちゃんは大丈夫だったの？」
- A : 「だからさあ、  
単なる、”だじゃれ”なのっ！  
ったくう、世話の焼けるひとですねえ…」
- B : 「”だじゃれ”でも、世話を焼いてもいいけどね、  
当のぼっちゃんは、結局どうなったの？」
- A : 「だめだあ、こりゃ…」

**じゃんじゃん！**

さて、このお話ですけれど…

・Bがだじゃれを理解できないでいるお話なんでしょうか、  
それとも

・だじゃれであることは、はなから分かっている、BがAを”おちよくって”い  
るお話なんでしょうか。

どちらなんでしょうかねえ…

どちらともとれる”不思議な”お話です。